

令和6年度版「学力向上ポータル」(学校版)【日進中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	数学では「数と式」の文字式・一元一次方程式、社会では「世界と日本の地域構成」、理科では「地球」を柱とする領域での地層について、学習の充実が必要である。タブレットの持ち帰り可能とすることにより、スタディサプリ等の反復学習や課題配信が充実し、家庭学習の定着が図られて「予習・復習」の学習習慣を浸透させたい。また、携帯電話やスマートフォンを含め、メディアリテラシー教育の充実も一層行う必要があり、家庭との相互の教育を連携していく。
思考・判断・表現	国語では「文章構成を考えて、根拠を明確にして考える」思考力を養う授業展開を継続していく。国語力は思考の根幹となるため、各科目領域での言語活動の充実を図る必要がある。数学では「必要な情報を読み取る」設問の無回答率を下げたい。社会では「資料を基に理解する」という知識と思考が繋がった思考力の充実、近世の領域は資料読解の充実に取り組みたい。理科では「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で知識の定着から関係性やどういうことが説明できる力を充実させ、知識不足による無回答率を下げたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>生徒の主体的な取組で、自ら学習の見直しを立てる力を充実させる力に差異がある。</p> <p><指導上の課題>一人1台タブレットが実用されていない状況もあり、ICTを活用した反復演習の個々に応じた基礎基本事項の習得が定着しにくい。</p>	⇒ 「エバンジェリスト委員会」を課業内に設け、「SSDB」「スタディサプリ」を活用した反復演習を学校全体の取組として、朝読書の時間で定期的に行う。【週1回実施】各教科で「スタディサプリ」を意図的に取り組み、【相談室・自習課題として】副教材の活用と併せて、個々の課題を自ら設定し、主体的な学びを実現できるようにする。【R6さいたま市学習状況調査「PC・タブレットなどのICT機器を」との程度使用しましたか。】について、肯定的回答の割合を65%以上とする。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>設問文の読解力や記述の表現力を高める必要がある。話し合い活動での積極性に差異がある。</p> <p><指導上の課題>各授業での話し合い活動の中で教え合い、まとめたり、発表したり、言語活動を繋げて発展させる必要がある。</p>	⇒ 全教科領域で生徒の主体的な問題解決力向上の手立てとして、話し合い活動を取り入れた授業で、「話す・聞く・書く・読む」の言語活動の取組を共通で行えるようにする。【R6さいたま市学習状況調査「学ぶことや働くことの意味を考えたり、今、学校で学んだこと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。】について、肯定的回答が約75%以上を意味する「対話的・深い学び」の継続により育成した主体性を学級活動に繋げて活かす。【R6さいたま市学習状況調査「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見をよき生かして解決方法を決めていますか。】について、肯定的回答が85%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	C	「エバンジェリスト委員会」により一人1台タブレットやタブレット機器の不具合を整備してきたが、今年度内での積極的な活用には至らなかった。R6さいたま市学習状況調査「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。】について、肯定的回答の割合が30%に達せず、資料活用をはじめとした機器の使用状況となった。【「ICT機器の使用が学習の役に立つと思う」という肯定的回答が約93%であり、ハード面の不十分さが次年度では改善して目標の実現に向けて実施していく。
思考・判断・表現	A	全教科領域で生徒の主体的な問題解決力向上の手立てとして、話し合い活動を取り入れた授業の取組を積み重ねたことにより、R6さいたま市学習状況調査「学ぶことや働くことの意味を考えたり、今、学校で学んだこと、自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。】について、肯定的回答が約72%でさらに主体的・対話的で深い学びの継続を学級活動に繋げていく。「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見をよき生かして解決方法を決めていますか。】について、肯定的回答が約93%で「スマイル委員会」の活動の成長が学校生活をより良くしようという意識に発展している。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では当該学年での平均正答率が向上し、学習指導要領(1)言葉の特徴や使い方に関する事項において(全国+4.7・県+4.2ポイント)、また(3)我が国の言語文化に関する事項において(全国+3.3・県+3.7)、問題形式短答式(全国+6.9・県+6.0)の数値の要因は、文法・語彙・古典の定期テストの出題傾向や振り返りによる反復が3年次当初のデータに表れたものと言える。数学では学習指導要領A数と式(全国3.3・県3.3)、またB図形において(全国+5.7・県+3.6)、問題形式短答式(全国+4.8・県+3.5)の数値の要因は、ワーク等の課題やICTの活用による基礎基本を固め、演習の反復によるものと言える。データの活用領域と問題形式の選択式の伸展性が他に比べ、わずかであるため知識の定着と活用の実践を継続していく。
思考・判断・表現	国語では学習指導要領A話すこと・聞くこと(全国+5.4・県+3.7)、またB読むこと(全国+4.3・県+3.0)、問題形式記述式(全国+5.1・県+2.9)の数値の要因は、話し合い活動やメモノートをとり、まとめることの継続によるものと言える。一方、正答率が飛躍したものの科目への興味関心が伸びていないという課題が見られた。また、学習指導要領B書くこと領域の伸展性がわずかであり、事実と感想・筆者の意見とを区別する読み方の観点と表現についてより一層指導する必要がある。数学では知識・技能による思考・判断の伸展性が導かれたと言える。一方、正答率が昨年度比低下の結果について、科目への興味関心は伸びていることから、学力向上への課題が見られた。また、問題形式記述式の平均正答率が全国・県ともに低く、数学的な表現を用いて説明する表現の対策などが課題である。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	各教科で市平均正答率を上回り、知識の定着への授業改善が図られた結果となった。国語・数学では60%以上の正答率となり、社会・理科では2年生は60%以上の正答率となった一方、1年生は約54%の正答率となったが、教科の専門性が進んだ中学校の学習のため、学習習慣の定着とともに経年比較で2年次では向上するものと思われる。国語では「我が国の言語文化に関する事項」の無回答率を下げるため、調べ学習の取組の改善に努める。数学では「データの活用」の領域において市平均正答率+5をさらに知識面での一層の充実を図り、情報社会への基礎学力を高めていく。社会では「資料を基に」「他の分野」に思考が繋がると知識の分断にならないことを指導していく。理科では自然現象を知識をもとに理解することを充実させるよう努める。
思考・判断・表現	特に、数学における「思考・判断・表現」の観点別市平均正答率が市平均を上回り50%以上となったことは授業改善が顕著に表れている。国語では「書くこと」「読むこと」を1年生から積み重ねることで、成長していく領域であり、教科としての取組を継続していく。社会では「近世までの日本とアジア」以外の無回答率が低く、特に2年生での市平均正答率+8.3は進展が見られた結果である。また、理科での2年生市平均正答率+8.2でも進展が見られ、知識科目での「思考・判断・表現」の充実にはさらに発展させ継続していきたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	タブレットの更新や一人1端末への整備が「エバンジェリスト委員会」を中心に2学期当初に整いつつある状況で、朝読書の時間で定期的に行う「スタディサプリ」がスタートする。各科目や個別対応ではドリルワーク「スタディサプリ」による演習が行われているが、家庭学習での定着まではタブレットの不足から実現していない。	変更なし
思考・判断・表現	B	「1・2年生の時に受けた授業で、ICT機器をどの程度使いましたか(質問27)において、週1回以上〜ほぼ毎日の肯定的回答が95.4%、その活用から認知的学習が達成(質問27)の肯定的回答が86.2%で授業でのICT活用の取組が進んでいる。また、話し合い活動(質問33)について肯定的回答が89.1%、総合的な学習の時間での主体性(質問38)は91.7%、学級活動(質問39・40)での話し合い活動では88.3・86.8%の肯定的回答が得られ、進捗では話し合い活動の取組が95%の肯定的回答があった。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)